

高橋和彦さん（昭和54年卒）

北日本重機有限会社 代表取締役

◇お仕事の内容を教えてください

建設機械や特殊重量物等、建設現場等で使用する品目全般の輸送に関する業務、産業廃棄物の収集運搬に関する業務、その他、市道等の除雪作業等に関する業務まで、様々な運搬要請等に応える事業を行う企業の社長をしています。

輸送業務については、建設現場・災害現場等、様々な場所に建設重機・災害用トイレ等、様々な物を届けて欲しいとの多様な要請に応え、33トントラックをはじめ特殊な車両を用意し取組む等で信用と実績を積み上げてきました。

東北震災の際には、津波で崩壊した道路の再生に必要となるブルドーザーをパトカーに先導されながら輸送した経験などもあります。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

困難だと思われる仕事を、是非にと請われて取り組み、それを成し遂げた時の達成感、また、お客様からの感謝の言葉を頂いた時の充実感、これらは何物にも代えがたい喜びです。

震災時には当社の技術と車でなければ運べないものを現地に届けましたが、子供たちから感謝の言葉を貰った時の感動は今でも忘れられないですね。

◇将来の夢を教えてください

釣りが好きで仲間と三陸などに足を運んでいます。ドライブも好きで夫婦で道の駅巡りをしています。また、コンビニで缶ビールを買って車庫で一杯やりながら、苦勞して創り上げた業務用車両を眺めたり、釣り道具をいじったりするのも好きですね。そんな時間をこれからも楽しんでいきたいです。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

1, 2年次はサッカー部に、3年次では応援団に所属し、応援団では副団長を務めました。夏場、卓球部の試合応援のため学校側に交渉し費用を負担して貰って陸前高田で熱く応援したことが思い出として残っています。充実した高校生活でしたね。

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

世の中は、決して学力だけでは生きていけません。若いうちは何でもいから打ち込み、苦勞し知恵を積み上げるべきだと思います。若い頃、親族から「20代、30代は寝なくてもいいからとにかく仕事をしろ。40代になったら知恵を出せ。50代になったら優しくなれ。60代になったら諦めろ。70代になったら童心に戻れ。」と言われましたが、自分の生き方を振り返ると正にそのとおりでした。

20～30代。結婚し子供が生まれると家族を食わせていかねばならないのでひたすら働き様々な経験を積むことが出来ました。40代となり世間を相手に仕事をするようになると経験を基に知恵を出せるようになりました。50代になると豊富な経験と知恵を用いて部下指導を行いました（「優しい」の意）。そして60代になると部下を信じ任せるようになりました（「諦める」の意）。また、別の親族からは「良いことをするにせよ、悪いことをするにせよ、人の上に立てる人間になれ」とも言われました。

自分の人生を振り返り専北生に特に伝えたいことは「世の中、学力だけでは生きていけないのだから、専北生としての誇りを持って生きていけ」ということです。他校に落ちたから仕方なく専北に入った等、情けないことを口にする人がいます。そんな専北生こそ「自分は専北卒業生」と世間に胸を張れるような生き方を徹底して行い、大きく成長して欲しいですね。

☆取材後記

困難と思わる様々な要請にも知恵を絞り特殊な車両を用意し対処する等、真摯に応えることで、信用と実績を積み上げてこられた高橋さん。装甲車搬送等、国家事業の一翼を担うお仕事も担ってこられました。

何にでも共通することでしょうが、「それは無理。出来ない。」と口にして断ることは簡単ですが、それでは新しいスキルや技術を身に付ける機会を逃してしまいます。

「要請に何とか応えてあげたい」との姿勢で知恵を絞り取組むことで会社も成長するし人にも喜んで貰える、との高橋さんのお話は成長と成功の要諦であると感じました。

高橋さん、素敵なお話を有難うございました。(担当：Y)